



生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)

東海学園大学 藤前干潟 保全20周年シンポジウム

ごみ非常事態宣言20年とこれから

2019年2月2日(土) 13:30~15:30

今池ガスホール

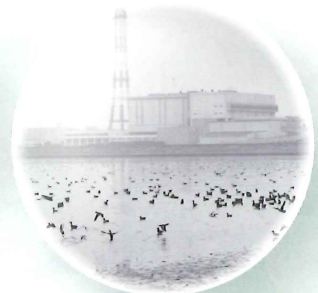
名古屋市千種区今池1-8-8 今池ガスビル9階
(地下鉄(東山線、桜通線)今池駅10番出口直結)



新資源収集開始に伴う
市民への広報・啓発



分別・リサイクルに
取り組む市民



平成3年の藤前干潟
©中日新聞社

名古屋市のこれまでの取り組み

- 昭和56年7月 藤前干潟の一部が廃棄物処理用地等として位置づけられる
- 平成11年1月 藤前干潟埋立計画を中止
- 平成11年2月 ごみ非常事態宣言
- 平成15年5月 自治体環境グランプリで「環境大臣賞」と「グランプリ」を220万市民と名古屋市が連名で受賞
- 平成22年10月 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋で開催

コーディネーター



なごや環境大学 学長
涌井 史郎氏



中日新聞 論説委員
飯尾 恭氏



岐阜薬科大学 学長
稲垣 隆司氏



CBCテレビ 論説室長
北辻 利寿氏



日本環境衛生センター 理事長
南川 秀樹氏



東海学園大学 学長
松原 武久氏

パネラー

主催：  東海学園大学  なごや環境大学

後援：名古屋市・名古屋市教育委員会・中日新聞社

東海学園大学 藤前干潟保全20周年シンポジウム

平成11年1月の藤前干潟のごみ最終処分場撤退から20年が経ちます。名古屋市は苦悩の中から、大幅なごみ量削減に挑戦し成し遂げましたが、これは行政だけではなく、市民一人ひとりの努力の総和で成し得た成果です。私たちが共に生きる地球を守るため、藤前干潟の歩みを振り返りながら、これからの環境問題について考えます。

「共生(ともいき)」を教育の理念とする東海学園大学は、環境問題にも取り組んでいきます。

■プログラム

- | | |
|-------|---|
| 13:30 | 開始(受付 13:00) |
| 13:35 | 竹下景子さんメッセージの紹介 |
| 13:45 | パネルディスカッション ごみ非常事態宣言20年の取り組みと これからの環境を考える |
| 15:30 | 終了予定 |

■申し込み方法 入場無料(要 事前申込)

下記の必要事項をご記入の上、「往復はがき」または「メール」でお申し込みください。

必要事項

①〒・住所 ②名前 ③電話番号

申し込み先

往復はがき

〒468-8514 名古屋市天白区中平二丁目901番地

東海学園大学 藤前干潟保全20周年シンポジウム 事務局宛

メール

2019.2.2@tokaigakuen-u.ac.jp

締め切り

平成31年1月9日(水) (先着順、募集定員(150名)に達し次第締切)

問い合わせ先

東海学園大学 藤前干潟保全20周年シンポジウム 事務局
TEL 052-801-1201(代)

※記入(入力)内容に不備がある場合は、受け付けできませんので、ご注意ください。
※申し込みの際に記載の個人情報は、適切に管理し、これ以外の目的には利用しません。